令和８年度　常盤平団地地区意見交換会のテーマについて

（団体名）　常盤平団地自治会

（件　名）　常盤平駅周辺のまちづくりにおける移動手段の実証実験について

（具体内容）

コミュニティバスは、団地周辺や駅、その他主要箇所を繋ぐという意味では有効ですが、団地地区内で高齢者が容易に利用し易い乗り物としては、グリーンスローモビリティが適していると思っています。

地区では、導入にむけた検討を重ねてきましたが、運転手の確保をはじめ、ルートや停留所等の決定は非常に難しく断念せざるを得ませんでした。

しかし、現在、常盤平周辺の賑わいを醸成すべく色々なイベントを常盤平周辺まちづくり推進課が担ってくれています。地域の方々によるまちづくり会議やＵＲ、松戸市、住民による三者意見交換会、各イベントでのアンケートにおいても「地域の足」となる交通機関を望む声が多く上がっています。

是非、その声に少しでも早く答えるべく、グリスロを含めた交通機関の実証実験を行っていただくよう強く要望します。

（回　答）

常盤平駅周辺まちづくり推進課では、常盤平地域の再生を目指し、令和 7 年 2 月に「常盤平地域のまちづくり方針」を定めるとともに、ＵＲ都市機構と「常盤平地域のまちづくりの連携及び協力に関する覚書」を締結いたしました。

「常盤平地域のまちづくり方針」では「新たな交通ネットワークや歩行空間の整備」を掲げており、自治会から頂戴した「地域の足」については、まちづくりにおいても重要な要素であると考えております。

このことから現在では、地域内の移動手段として、高齢者支援や地域公共交通の観点からグリーンスローモビリティや新たな移動手段などについて関係課と情報共有するとともに、公共空間の再編や地域の回遊性向上と一体となった移動環境の構築に向け、部局間で連携しながら、地域に適した交通手段の導入可能性について検討を進めているところです。

現在は、利用者の予約に応じて運行する AI デマンド交通についても選択肢の一つとして調査・研究を行っております。

AI デマンド交通につきましては、駅や公共施設等へのアクセス需要と地域内の比較的短距離な移動需要の双方への対応が期待できる面もあることから、地域特性との適合性について確認を進めているところでございます。

また、交通手段の確保に加え、誰もが快適に過ごせる道路空間の実現も重要であることから、地域イベントやマーケットなど「常盤平ＳＯＮＯプロジェクト」の実証実験を通じて、人々の回遊・滞在状況や移動ニーズを把握し、歩いて楽し

く､移動しやすく､自然と外出したくなる環境づくりを検討しているところです。あわせて、ケヤキ通りを中心とした公共空間の利活用を進め、ベンチ設置などによる安心できる滞在空間や、地域のにぎわいを創出することで多世代が交流できるまちを目指します。

　これらの取り組みは、地域コミュニティの活性化に加え、高齢者の外出機会の創出や交流促進、フレイル予防にもつながるものと考えています。

　市といたしましては、常盤平地域に適した交通手段の検討に加え、歩きやすい移動空間や回遊性の向上、ベンチなど安心して休憩・滞在できる空間を一体的・総合的に整備することで、「移動しやすい」だけでなく「外出したくなる」まちづくりを推進し、高齢者の外出促進や地域コミュニティの活性化につなげてまいります。

（回答課）常盤平駅周辺まちづくり推進課
　　交通政策課
　　高齢者支援課